
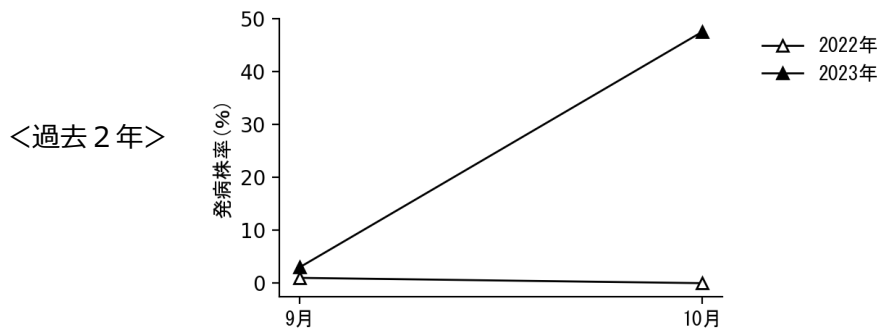
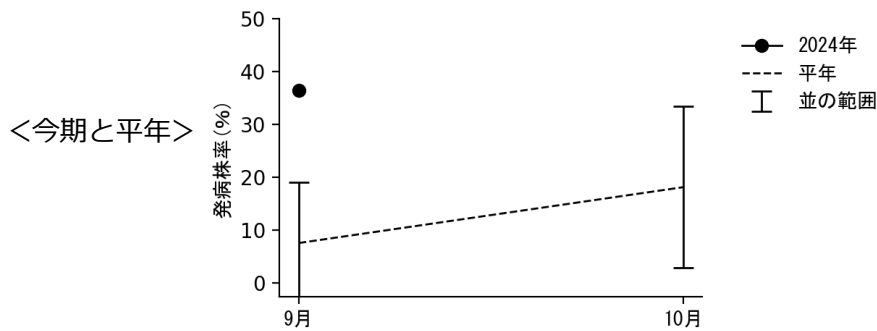


作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	① 葉いもち病		
調査結果	9月の発生量（平年比）	やや多	
予報	9月からの増減傾向	↗	
	10月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果


発病株率の推移



- 。一部ほ場で多発
- ・発生ほ場率75.0%（平年：26.5%）

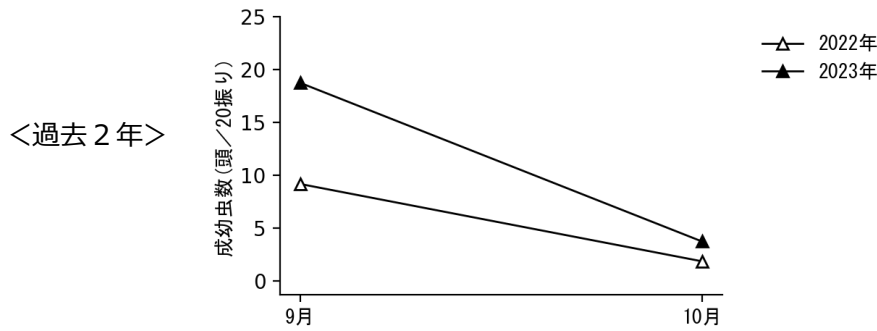
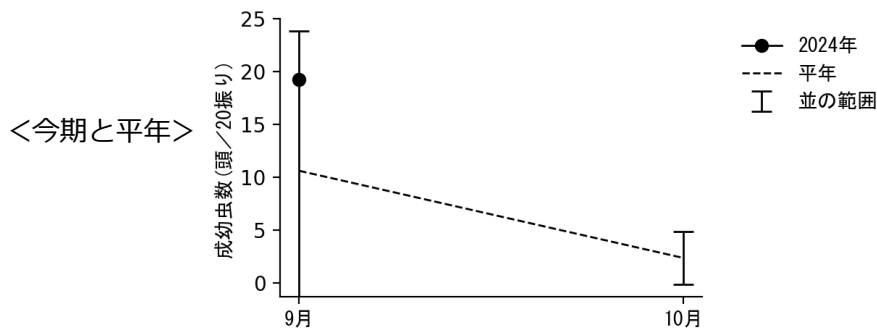
防除のポイント

- ・窒素肥料の過用により徒長した場合や葉色が濃い場合に発生が多いため、これらのほ場では施肥量を減らすか、ケイ酸資材の施用を行う。
- ・穂いもち病への移行を防ぐため、発生を確認したら速やかに薬剤防除を行う。
- ・発生の多い地域では、共同防除を行う。

作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	② セジロウンカ		
調査結果	9月の発生量（平年比）	並	
予報	9月からの増減傾向	↓	
	10月の発生量（平年比）	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率87.5%（平年：75.0%）

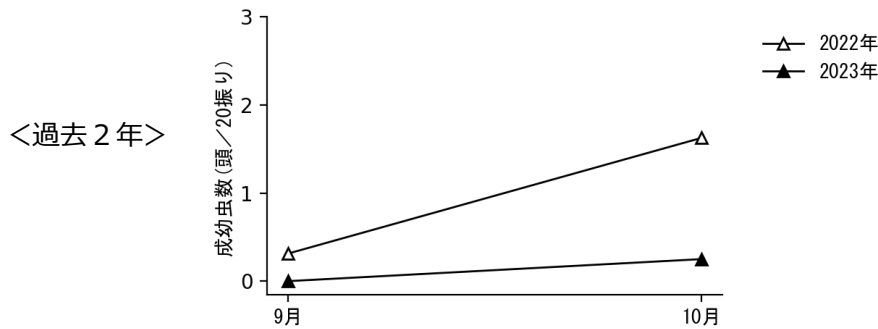
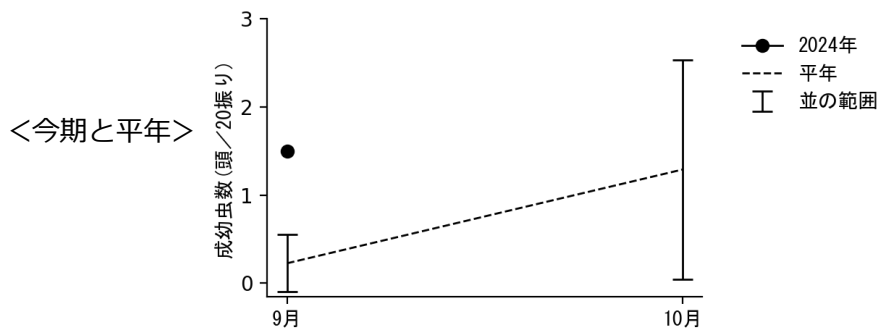
防除のポイント

- ・ウンカ類は株元に生息するため、薬剤防除を行う場合、株元に十分に薬剤がかかるように心がける。
- ・突発型の害虫であるため、発生予察情報を注意する。

作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	③ ツマグロヨコバイ		
調査結果	9月の発生量（平年比）	多	
予報	9月からの増減傾向	↗	
	10月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率50.0%（平年：14.6%）

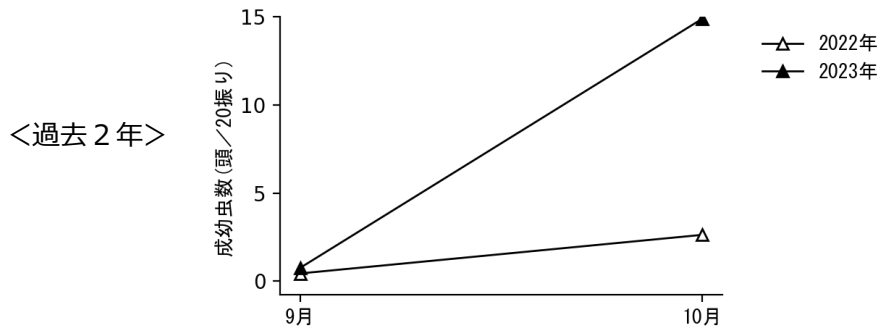
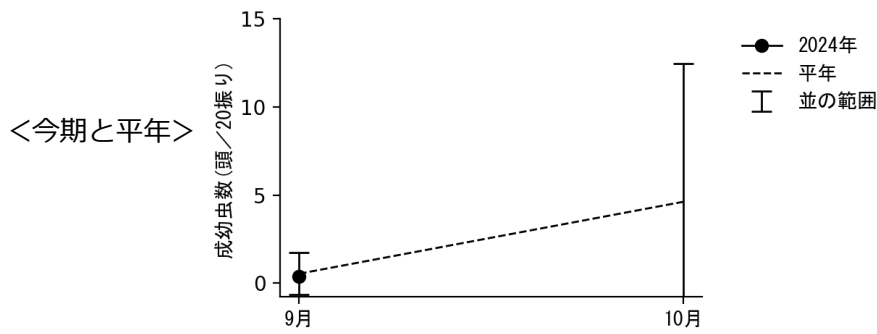
防除のポイント

- ・育苗時の初期防除と吸汁害対策としての本田防除を徹底する。
- ・水田周辺の雑草防除を行い、発生源を少なくする。

作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	④ 斑点米カメムシ類		
調査結果	9月の発生量（平年比）	並	
予報	9月からの増減傾向	↗	
	10月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率37.5%（平年：18.9%）

防除のポイント

・次作に向けた密度低減を図るため、畦畔および水田周辺の除草を行う。




クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ

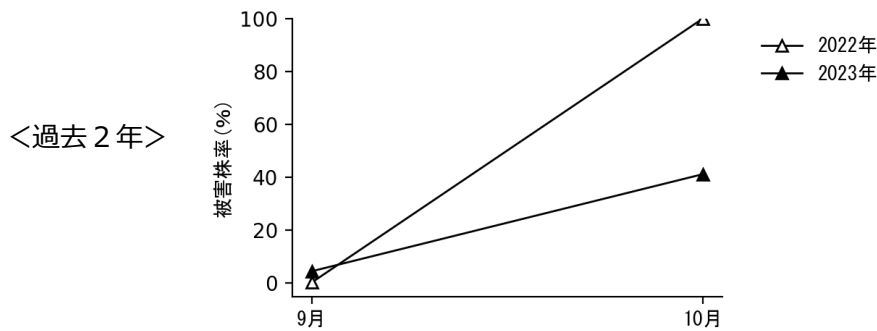
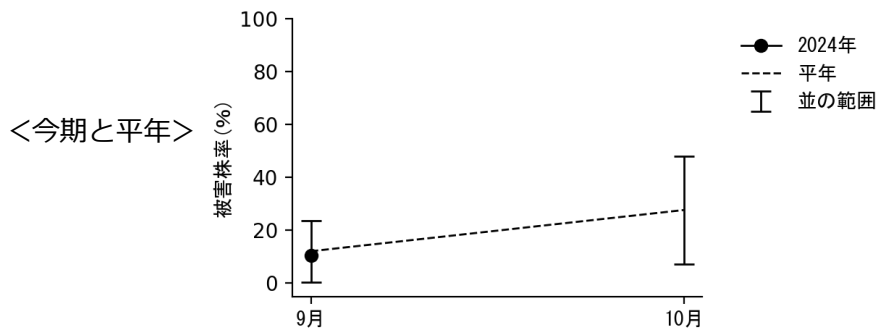


斑点米

作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	⑤ コブノメイガ		
調査結果	9月の発生量（平年比）	並	
予報	9月からの増減傾向	↗	
	10月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果


被害株率の推移



・発生ほ場率50.0%（平年：44.6%）

防除のポイント

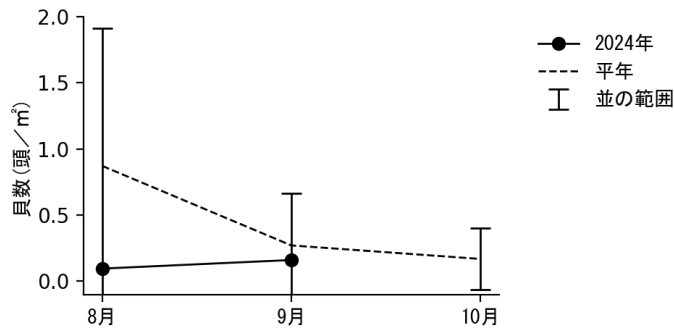
- ・二期作では幼虫と成虫が混在するため粒剤と液剤を併用して防除する。

作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	⑥ スクミリングガイ		
調査結果	9月の発生量（平年比）	並	
予報	9月からの増減傾向	↘	
	10月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	

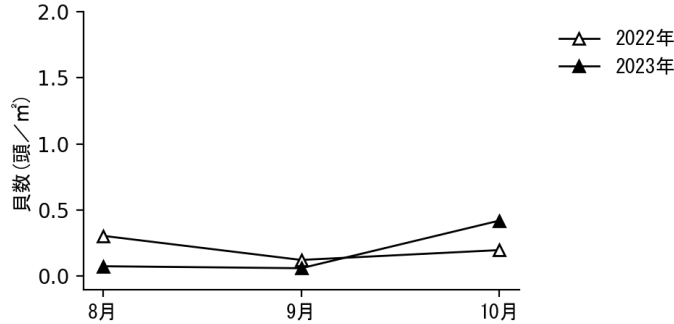
調査結果

貝数の推移

<今期と平年>




<過去2年>



・発生ほ場率37.5%（平年：39.2%）

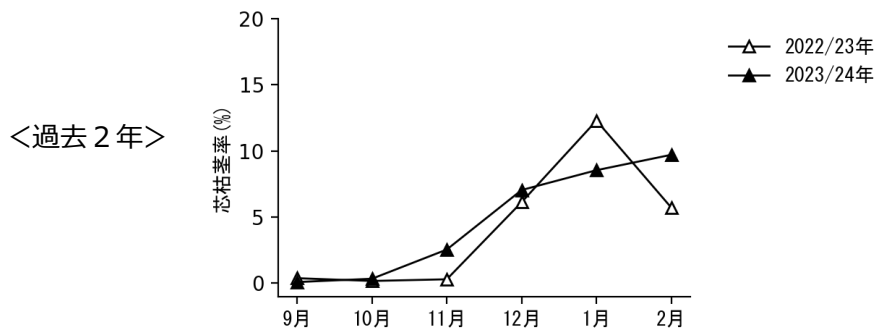
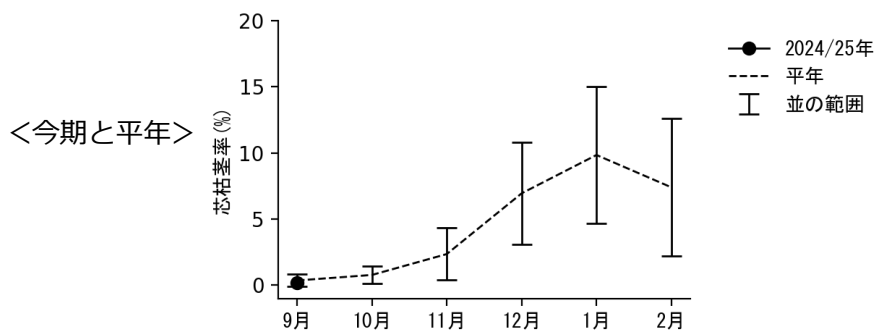
防除のポイント

- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。
- ・次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。

作物	さとうきび		地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並		
予報	9 月からの増減傾向	→		
	10 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果


芯枯莖率の推移(夏植え)



・発生ほ場率33.3% (平年 : 31.9%)

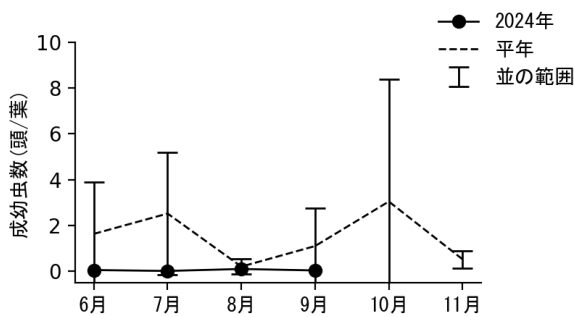
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ莖を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効莖を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・莖葉への乳剤散布は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

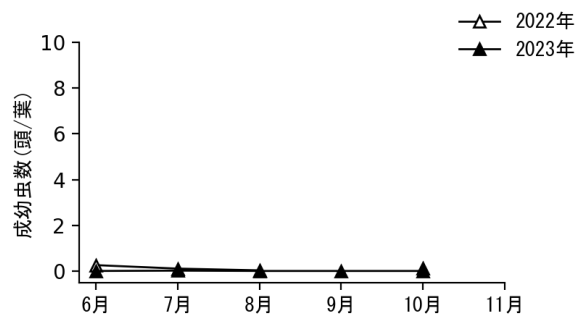
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

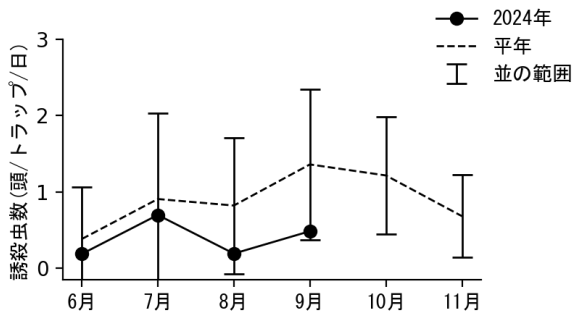
葉当たり成幼虫数の推移 (今期と平年)



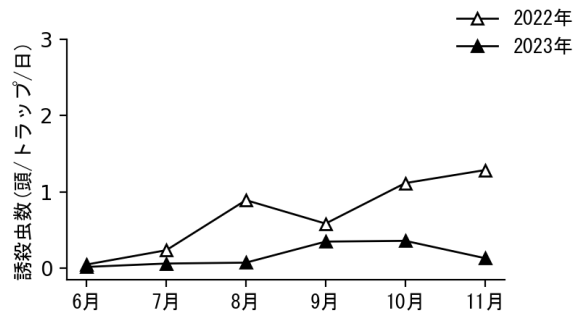
葉当たり成幼虫数の推移 (過去 2 年)



トラップ当たり誘殺虫数の推移 (今期と平年)



トラップ当たり誘殺虫数の推移 (過去 2 年)




・発生施設率33.3% (平年 : 71.8%)

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

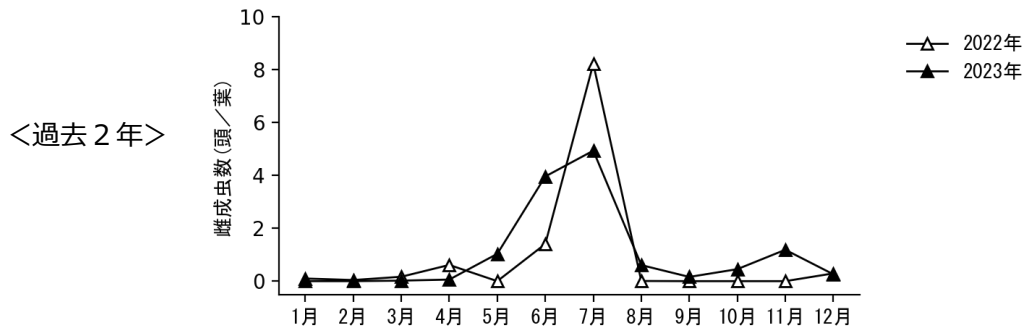
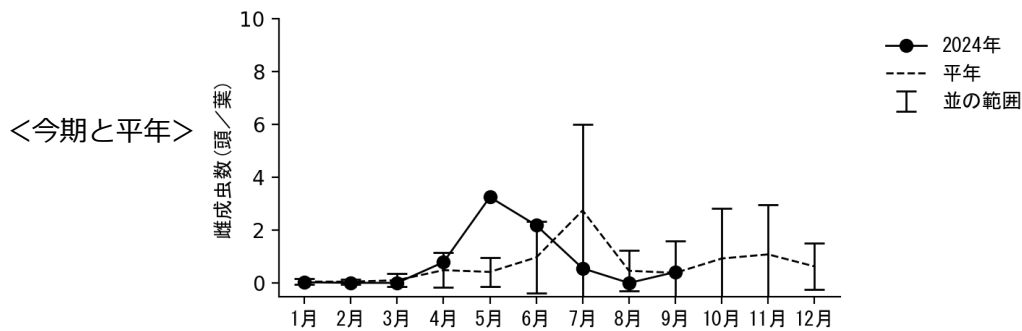


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	② ハダニ類			
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並		
予報	9 月からの増減傾向	↗		
	10 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率20.0% (平年：26.0%)

防除のポイント

・多発すると防除が困難となる。特に収穫時、発生が多くみられた施設では、多発する傾向があるため早期発見・防除に努める。


・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

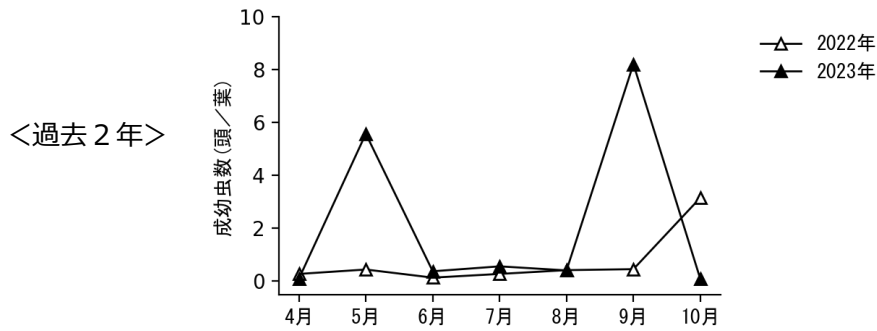
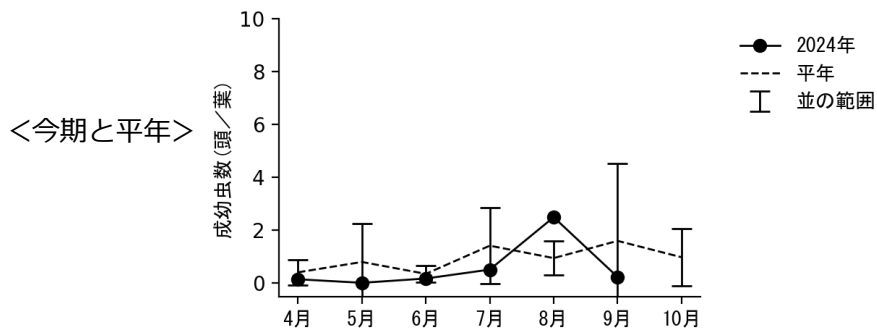


マンゴーツメハダニ

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	① フタテンミドリヒメヨコバイ		 <p>成虫</p>
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↘	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

成幼虫数の推移




・発生ほ場率80.0% (平年 : 88.7%)

防除のポイント

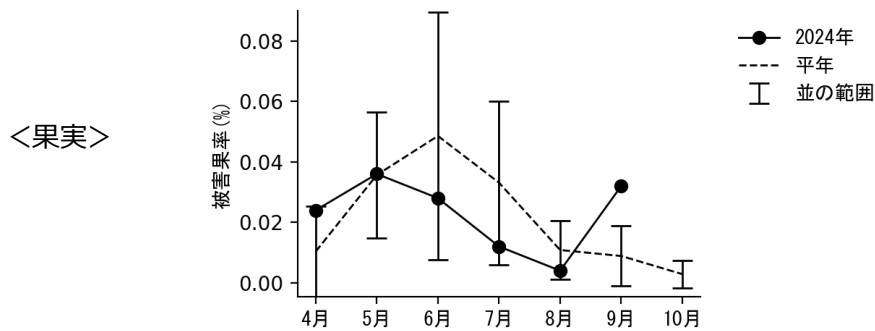
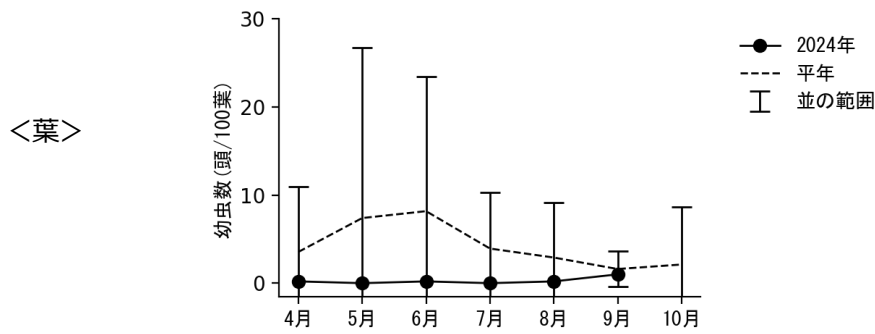
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	② チョウ目幼虫		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	→	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の発生推移



- ・発生種：オオタバコガ、フタトガリコヤガ
- ・発生ほ場率20.0% (平年：28.3%)

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

